



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

11月号—No.318
2021.10.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew



【涅色(くりいろ)】川底の泥のような褐色がかった黒色。

「涅」は水や沼などの水底に沈殿した泥のことで、古くから布を黒く染める染料として用いられてきた。泥染めの代表と言える大島紬の黒は、まずタンニンを含むテーチ木の煮汁で染め、その後、鉄分を多く含む泥田に漬けて、タンニンと鉄分が反応して産み出されたものだ。

●目次／contents

今月のニュース..... 2

公共ホール演劇ネットワーク事業を振り返る

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ豊橋セッション参加者募集／令和4年度「地域創造セミナー事業」実施団体募集／令和3年度「公共ホール邦楽活性化事業」スタート／令和4・5年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集／「特別寄稿 ビューポイント view point」No.6掲載について

今月の情報..... 7

地域通信／オンラインを活用した取り組み

今月のレポート..... 12

和歌山県九度山町 「くどやま芸術祭2021」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4183 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

●公共ホール演劇ネットワーク事業を振り返る

単館でできないことを公立ホールの連携で実現

公共ホール 演劇ネットワーク 事業



地域創造では、財団設立以来、公立文化施設におけるクラシック音楽や現代ダンス、演劇、邦楽、美術などの取り組みを通じて公立文化施設の活性化を支援する事業を実施してきました。なかでも演劇ジャンルでは、地域の状況を踏まえた多彩な事業を展開してきました。

当初は、買い公演を実施することの多かった状況を踏まえ、平成11(1999)年度から公立ホールがネットワークを組んで演劇作品をプロデュースする「公共ホール演劇製作ネットワーク事業」と、公立ホールが推薦する地域の若手劇団に東京公演の機会を提供する「リージョナルシアター・シリーズ」(いずれも平成19年度で終了)に取り組みました。その結果、共同プロデュース10作品の製作、全国36劇団の東京公演を実現しました。

平成20(2008)年度には、その成果と地域からの要望を踏まえ、事業の大幅な組み替えを行いました。そしてスタートしたのが、地域に派遣した演出家などの実演家と公立ホールがアウトリーチなどに取り組み、演劇の手法を使ったワークショップを実践的に学ぶ「リージョナルシアター事業」と、複数の公立ホー

ルが連携して演劇作品の巡回上演とワークショップなどの地域交流プログラムを行う「公共ホール演劇ネットワーク事業」です。

現在、リージョナルシアター事業は、豊富な経験をもつ5名のアーティストが各地で実践を行っています。一方、公共ホール演劇ネットワーク事業は、令和2(2020)年度をもって事業を終了しました(令和2年度はコロナ禍により公演中止)。今回のレターでは、ネットワーク事業の果たしてきた役割について地域創造の津村卓プロデューサーに振り返っていただきました。

●単館でできないことを、公立ホールの連携で実現

最初の「公共ホール演劇製作ネットワーク事業(以下、演劇製作ネット)」は、演劇プロデューサーの経験があり、プロデュースしたい企画のある公立ホールが「制作館」となり、経験の少ない公立ホールが負担金を出して実際の公演製作に参画し、つくり方を学ぶという事業でした。企画のあるところがプレゼンテーションを行い、共同製作に参画したいところが企画を選ぶという形で、平成11(1999)年度のモデル

写真1:平成25年度「柿喰う客 こどもと観る演劇プロジェクト2013『ながぐつをはいたねこ』

撮影:引地信彦

2:平成26年度「こどもとおとなのためのお芝居『暗いところからやってくる』

撮影:田中亜紀

3:平成29年度「とおのものけやしき」

写真:井上大志

4:令和元年度「めにみえない みにしたい」

撮影:細野晋司

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

事業から数えて平成19(2007)年度までに10作品を製作しました(地域創造が事業費の一部を負担)。

今から20年以上前、公立ホールが共同製作をすることがほとんどなかった時代で、経費負担のルールをどうするかなど、手探りで進めました。実際の舞台製作は東京で行われることが多く、東京から遠いほど移動費が嵩みます。しかし、演劇製作ネットでは公立の役割として共同で鑑賞環境を整備するという趣旨で、すべての経費を割り勘にしました。それによって地域がどこかに関わらず参画できるようになりました。こうした共同製作のルールはこの事業で整理されたものであり、レガシーになっています。

一方、演劇のクリエイションを目的に負担金を拠出できるほど体力のあるところは限られており、演劇があまり行われていないところは参加しづらいという面がありました。そこで少ない負担金(100万円前後)で良質な演劇公演と、公演に同行する演出家などによるワークショップが実施できる「公共ホール演劇ネットワーク事業(以下、演劇ネット)」にリニューアルしました。これは、公立ホールを巡回するツアーをつくるもので、最後になった『めにみえない みみにしたい』(令和元年度/作・演出:藤田貴大)の9館を含め、12年間で13作品が延べ82館をツアーしました。

演劇製作ネットが企画書で内容を判断して新作をプロデュースするものだったのに対し、演劇ネットは良質な舞台を再演し、地域で見ることができる機会を提供するものであり、公立ホールが内容をきちんと把握した上で事業に参加できる安心感がありました。巡回公演でしたが、公立ホールの連携に参加したことで制作や演劇人に対する理解が一步深まり、ワークショップなどによって演出家や俳優と交流したことで地域の劇場や市民が演劇と向き合う入り口を提供できたのではないかと自負しています。この事業をきっかけに地域との信頼関係が生まれ、継続的に付き合っている演出家も複数います。これが演出家などを地

域に派遣するリージョナルシアター事業にも繋がっています。

また、演劇ネットは小劇場の舞台作品が公共ホールをツアーする道筋をつけたと思っています。小劇場の演劇人が規模の全く異なる地域の公立ホールで公演を行う経験を積む機会となり、舞台をつくる側も鍛えられました。加えて、地域でのツアーを踏まえて子どもたちにも見てもらいたいプロダクションをつくるチャレンジにもなりました。公立ホールが連携することで、これだけ質の高いプロダクションがつかれるという実績になったのではないのでしょうか。

演劇ネットも参加するホールが固定化してくるなど、入り口事業としての役割を終えたと考えています。現在、新たなプログラムづくりに向けて検討を重ねているところです。概要が決まり次第、レターで発表させていただきます。

●公共ホール演劇製作ネットワーク事業(共同プロデュース作品一覧)

- ◎『ネメーおかしなおかしなおバケのはなし』(1999年度/原作:宮澤賢治/台本・演出:佐藤信/共同製作:3館) ※モデル事業
- ◎『サド侯爵夫人』(2000年度/作:三島由紀夫/総合プロデューサー:鈴木忠志/演出:原田一樹/共同製作:7館)
- ◎『若草物語』(2001年度/原作:ルイザ・メイ・オルコット/台本・演出:松本修/共同製作:12館)
- ◎『ファンタスティクス』(2002年度/脚本・作詞:トム・ジョーンズ/作曲:ハーヴェイ・シュミット/演出:宮本亜門/共同製作:14館)
- ◎『だれか、来る』(2003年度/原作:ヨン・フォッセ/演出・美術:太田省吾/共同製作:8館)
- ◎『ハロー、グッバイ』(2004年度/脚本・演出:竹内統一郎/共同製作:8館)
- ◎『天の煙』(2004年度/作:松田正隆/演出:平田オリザ/共同製作:8館)
- ◎『滞在型ワークショップ『演出家・森田さんのイッセー尾形ができるまで』、公演『イッセー尾形とフツの人々』(2005年度/演出:森田雄三/共同製作:8館)
- ◎『親指ごころ〜ブケッティノ』(2006年度/原作:シャルル・ペロー/演出:キアラ・ガイディ/共同製作:10館)
- ◎『いとこ同志』(2007年度/作・演出:坂手洋二/共同製作:9館)

●公共ホール演劇ネットワーク事業(巡回公演作品一覧)

- ◎『なつざんしょ・・・夏残暑一』(2008年度/作・演出:内藤裕敬/参加:4館)
- ◎『どくりつ こどもの国』(2009年度/作・演出:岩崎正裕/参加:4館)
- ◎『人形劇俳優 たいらじょうの世界』(2009年度/演出・美術・人形操演:平常/参加:10館)
- ◎『さらって行ってよピーターパン』(2010年度/作:別役実/演出・振付:森田守恒/参加:3館)
- ◎『劇団衛星のcockピット』(2011年度/作・演出:蓮行/参加:5館)
- ◎『あなた自身のためのレッスン』(2012年度/作:清水邦夫/演出:多田淳之介/参加:4館)
- ◎『ながぐつをはいたねこ』(2013年度/原作:シャルル・ペロー/脚色・演出:中屋敷法仁/参加:7館)
- ◎『暗いところからやってくる』(2014年度/作:前川知大/演出:小川絵梨子/参加:8館)
- ◎『ヒッキーカンクートルネード』(2015年度/作・演出:岩井秀人/参加:10館)
- ◎『演出家だらけの青木さん家の奥さん』(2016年度/作・演出:内藤裕敬/参加:5館)
- ◎『とおのものけやしき』(2017年度/作・演出:岩崎正裕/参加:6館)
- ◎『桂九雀で田中啓文、こともあろうに内藤裕敬。笑酔亭梅寿謎解晰〜立ち切れ線香の章』(2018年度/原作:田中啓文/脚本・演出:内藤裕敬/参加:7館)
- ◎『めにみえない みみにしたい』(2019年度/作・演出:藤田貴大/参加:9館)

財団からのお知らせ

●ステージラボ豊橋セッション参加申し込み方法

当財団ホームページから募集要領・申込書類をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。
<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html#boshu>
申し込み先:kensyu@jafra.or.jp

●ステージラボに関する問い合わせ 芸術環境部 藤原・吉川・梅村 Tel. 03-5573-4183

◎穂の国とよはし芸術劇場PLAT

PLATは、東三河地域の市民のための演劇・舞踊・音楽等の芸術文化の振興と芸術文化を活用した市民の交流と創造活動の活性化を図るため、2013年に豊橋駅徒歩3分の位置に開館した芸術文化交流施設です。出演者の熱気や緊張感、生の台詞が客席に自然に伝わることに配慮した親密感のある主ホール(778席)と、幅広い文化活動が可能な小劇場空間アートスペース(266席)のほか創造活動室や研修室を備え、市民が交流・活動する文化の“プラットフォーム”として幅広く活用されています。
豊橋市が文化振興指針に理念として掲げる「文化がみえるまち」の実現のもと、本格的な舞台公演の創造発信事業や鑑賞事業、「高校生と創る演劇」など市民参加型事業、ファシリテーター養成講座などの人材養成事業などを展開し、2017年度プロデュース公演「荒れ野」で第5回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞、2018年度地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞。指定管理者は(公財)豊橋文化振興財団。

●ステージラボ豊橋セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。

令和3年度は、穂の国とよはし芸術劇場PLAT(愛知県豊橋市)にて3コースを開催します。各コースの詳細は募集要領をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

募集締切:2021年11月25日(木)必着

◎ステージラボ豊橋セッション概要

[日程]2022年2月15日(火)~18日(金)

※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ
2月15日(火)~17日(木)

[会場]穂の国とよはし芸術劇場PLAT(愛知県豊橋市西小田原町123)

[コース]ホール入門コース、自主事業コース、公立ホール・劇場マネージャーコース

[定員]各コース最大20名

[主催]一般財団法人地域創造、公益財団法人豊橋文化振興財団

[共催]豊橋市

[後援]愛知県

※新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上で実施いたします。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催内容等が変更となる場合がございます。

◎ホール入門コース

【コーディネーター】

小川智紀(認定NPO法人STスポット横浜 理事長)

【対象となる職員の目安】

公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む)において、業務経験年数1年半未満(開館準備のための組織は年数不問)の職員

【コース概要】

公共ホール・劇場にいながら、その様子を外から眺めることは難しいものです。芸術やアートという世界から離れ、人口37万人の都市・豊橋という場所で、コートの襟を立てて、一緒にまちを歩いてみませんか。日々の暮らしの中に

ある文化施設の意味を、仲間とじっくり考える機会にしましょう。

◎自主事業コース

【コーディネーター】

田上豊(劇作家・演出家、田上パル主宰、富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督)

【対象となる職員の目安】

自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2~3年程度の職員

【コース概要】

このコースでは、自主事業の中でも、教育・交流事業と創造事業に的を絞り、皆さんの地域で今後実施していくには何が必要か、またどんな視点に立つべきかを考察しながら、実践的なレクチャーおよびワークショップ形式で進めていきます。コロナ禍を踏まえ、地域性を加味し、時代に即した自主事業のあり方をラボに集ったメンバーと共有し、多角的に考えていきましょう。

◎公立ホール・劇場マネージャーコース

【コーディネーター】

会田大也(山口情報芸術センター[YCAM]アーティスティックディレクター)

【対象となる職員の目安】

公共ホール・劇場において管理職程度の職責をもつ職員

【コース概要】

このコースでは、公立ホールや劇場のマネジメントを行う方を対象に研修を行います。ホールや劇場には、利用者、表現者、設置者などさまざまなステークホルダーがいますが、それぞれの立場を勘案しながら、公立の施設・組織であることの社会的な責任を考えます。研修とはいえ、答えをお渡しする形はイメージしていません。結論はどこも出せていない課題に対して、一緒に考えていく内容になると思います。

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和4年度「地域創造セミナー事業」実施団体募集

都道府県が主催する地方公共団体職員および公立文化施設職員等を対象とした研修会に対し、地域創造が講師を派遣する「地域創造セミナー事業」の実施団体の募集を開始します。

本事業が対象としている研修会は、文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりを内容とするもののほか、都道府県下における芸術文化団体の相互連携や、芸術文化団体と他の領域の団体のネットワーク構築など広域的な連携強化を目的とする内容のものとしています。講演会のテーマや内容は、申請する

都道府県の課題や今後取り組みたい施策などを基に決定し、そのテーマや内容を基に地域創造が講師を選定して派遣します。研修会は、講師による講演のほか、テーマや要望に応じて講師によるワークショップを実施します。

地域課題の芸術文化の視点での検討や、地方公共団体をはじめ多様な主体の連携による広域的な芸術文化を活用した新たな施策等の検討など、これからの地域と芸術文化を考える上で有益な話を、有識者や先駆者から得ることのできる絶好の機会となりますので、ぜひご活用ください。

募集締切：2021年11月25日(木) 必着

●「地域創造セミナー」実施要綱・申込書は、当財団ホームページ内からダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/training/8010.html>

◎研修項目例

- 文化芸術で地域をつなぐ(アウトリーチの事例)
- 文化と観光による地域振興について
- アーティスト・イン・レジデンスにおけるアーティストの役割と地域の戦略
- 地震等災害時の文化施設の業務継続計画、施設のリスクマネジメント

◎問い合わせ

芸術環境部 梅村・藤原

Tel. 03-5573-4066

●令和3年度「公共ホール邦楽活性化事業」

◎参加団体(主会場/派遣アーティスト/日程)

●釜石まちづくり株式会社(釜石市民ホールTETTO/岡村慎太郎(箏)、山形光(箏)、黒田鈴尊(尺八)/2022年2月24日~26日)

●公益財団法人つくば文化振興財団(つくばカピオホール/本田浩平(津軽三味線)、橋本大輝(津軽三味線・唄・太鼓)、安藤龍正(津軽三味線・舞踊)/2022年2月17日~19日)

●公益財団法人伊賀市文化都市協会(あやま文化センター/麻植理恵子(箏)、川崎貴久(尺八)、小林鈴純(尺八)/11月25日~27日)

●一般社団法人豊前市芸術文化振興協会(豊前市市民会館/藤高理恵子(筑前琵琶)、日原暢子(箏)、蓑田弘大(三味線)/9月30日~10月2日)

◎問い合わせ

芸術環境部 永田・森永

Tel. 03-5573-4064

※お詫びと訂正

前号(10月号)の「今月のニュース」の情報欄に以下の誤りがございました。お詫びして訂正させていただきます。

P2[アドバイザー]

小林末央子(豊島区文化デザイン課)

↓

小林末央子(豊島区文化デザイン課)

●令和3年度「公共ホール邦楽活性化事業」がスタート

市町村ホール等と地域創造が共催し、地域において邦楽の魅力にふれていただくため、地域創造が派遣する演奏家による地域交流プログラムやホールコンサートを実施します。今年度は、9月から来年2月まで全国4地域で事業を展開します。今号では9月30日~10月2日の日程で開催された、福岡県豊前市の模様をご紹介します。

豊前市は、福岡県の東部に位置する、人口約2万4,000人の市です。市内にある豊前市市民会館の指定管理者である豊前市芸術文化振興協会が主催となり、筑前琵琶の藤高理恵子さん、箏の日原暢子さん、三味線の蓑田弘大さんを招いて実施されました。

アウトリーチは市内にある4つの中学校を対象に、邦楽との出会いやプロになろうと思ったきっかけなどのお話を交え、それぞれの邦楽の魅力伝える楽曲を披露しました。

最終日には、「邦楽のしらべコンサート~和楽器っていいっちゃね~」が開催されました。オープニングは、このコンサートが初演となる『三雅』。この楽曲は今回のコンサートのために書き下ろされた曲で、三種の楽器の魅力を存分に披露しました。また、アンコールには豊前市市民会館の担当者である松田弥生さんのリクエストで『黒田節』を演奏。新型コロナウイルス感染症対策で観

客は歌を歌うことはできませんでしたが、身体を揺らしながらリズムをとって会場に一体感が生まれました。



上：豊前市での邦楽アウトリーチ
下：邦楽のしらべコンサート

財団からのお知らせ

●美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ

◎申請方法

当財団ホームページの「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」より、申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、お申し込みください。

<https://www.jafra.or.jp/project/visual-art/05.html#boshu>

◎研修項目例

- 文化政策のこれまでの流れと今後の方向
- 公立美術館のミッション策定のあり方
- 地域連携・地域に親しまれる企画のあり方
- 効果的なプロモーション(広報)
- マーケティング・創客
- 美術館と観光・インバウンド
- 公立美術館同士または民間施設との連携
- 公立美術館と他の行政分野との連携
- 美術館経営のPDCAサイクル
- 公立美術館の評価システムの具体例
- 公立美術館のショップ・レストランの具体例
- 公立美術館の組織や人を動かす手法
- その他、申請美術館が必要とする、公立美術館運営能力の向上に資するもの

◎問い合わせ

総務部 三田・梅村
Tel. 03-5573-4184

●令和4・5年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集

実践的な公立美術館運営能力の向上と、公立美術館の相互交流の促進を図ることを目的とした研修事業です。美術館や地域の課題意識に沿って研修テーマを設定し、地域創造の

負担で講師を研修会開催地の美術館へ派遣します。

本事業を令和4・5年度に地域創造と共催で行う公立美術館を募集します。ご応募をお待ちしております。

募集締切:2022年1月28日(金)必着

●対象となる公立美術館等

次の①の公立美術館(博物館その他の美術作品の公開及び保管を行う施設をいう。以下「公立美術館」という。)が、②のいずれかの形態で参加することを要件とする。

①A 地方公共団体が設置し、以下の団体が管理運営する公立美術館

ア 地方公共団体

イ 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体

B 地方独立行政法人が設置し、管理運営する公立美術館

②参加する美術館の形態

A 都道府県単位の複数の公立美術館

B 都道府県内外のまとまった地域の複数の公立美術館

●対象となる職員

公立美術館の学芸員、一般事務職員、当該公立美術館を設置する地方公共団体の行政部局の職員等

●申請者

●都道府県単位の公立美術館の研修事業の場合は、当該都道府県立美術館

●都道府県内外のまとまった地域における研修事業の場合は、地域の中核的な公立美術館

●事業内容(原則)

【開催地】

申請をする公立美術館(以下、「申請美術館」)

【参加者数】

研修内容に則した参加者数を設定する。原則として20名以上の参加者により行う。

【開催回数・開催時間等】

令和4・5年度の2年間について、内容の異なる半日程度の研修事業を、申請美術館の希望する日程において、複数回行う。

(例:有識者による講義、事例紹介、グループディスカッション、実践的なワークショップ等)

申請書類等を参考に、公立美術館の課題意識に沿って、申請美術館と地域創造が共同してオーダーメイド型で策定する。

●申請美術館としての業務

各研修のテーマ設定、参加者募集にかかる事務、参加者名簿の作成、司会や受付などの人員確保を含む会場の設営、配布資料の印刷などの業務(なお、参加職員の旅費は派遣した公立美術館が負担)。

●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.6掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。

新たに箏奏者の吉澤延隆氏にご寄稿いただき

ました(10月12日更新)。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/column06.html>

◎問い合わせ

芸術環境部 吉川
Tel. 03-5573-4068



▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 藤原・梅村

●2022年1月号情報締切 11月26日(金)

●2022年1月号掲載対象情報 2022年1月～4月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●青森県八戸市

八戸市美術館
〒031-0031 八戸市大字番町10-4
Tel. 0178-45-8338 大澤苑美
<https://hachinohe-art-museum.jp/>

八戸市美術館開館記念 「ギフト、ギフト、」

建て替えにより休館となっていた八戸市美術館が11月3日にリニューアル開館。その最初の展覧会は、八戸を代表する祭り「八戸三社大祭」を出発点に、経済行為では手に入らない「もの」や「こと」、そのやりとり＝“ギフト”の精神を見つめる企画。地元のみりえ作家の作品や私設ミュージアムの浮世絵コレクション、映像、写真、陶芸、インスタレーションなど多様な作品を紹介する。地域とアートの「出会い」と「学び」を通じて100年後の八戸を創造するこの美術館のあり方を表す展覧会とプロジェクトとなっている。

[日程]11月3日～2022年2月20日
[会場]八戸市美術館

●仙台市

せんだいメディアテーク(仙台市市民文化事業団)
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
Tel. 022-713-4483 清水建人
<https://www.smt.jp/>

ナラティブの修復

東日本大震災からの10年間、メディアテークとともに地域で活動してきた仙台・宮城ゆかりのアーティスト10組による現代アートの展覧会。「ナラティブ＝もの語り」をテーマに、アーティストのさまざまな表現を、“今”をもの語る多様な「語りの技」として紹介する。震災の記憶の継承やコロナ禍でのコミュニケーションなどについて考える機会を提供する。

[日程]11月3日～2022年1月9日
[会場]せんだいメディアテーク

●山形県米沢市

米沢上杉文化振興財団
〒992-0052 米沢市丸の内1-2-1
Tel. 0238-26-2666 藤元周平
<https://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp/hall.htm>

能面から知る能の世界

米沢市上杉博物館企画展「上杉家伝来能面・能装束～語りはじめた面袋～」(10月16日～12月8日)と同時に観ることで、能の面白さをより知ることができる能公演。能面は演目によって異なり、能の雰囲気も変化する面白さに特化した内容で、能の一番の見どころを演じる「舞囃子」を三番、後半部分を上演する「半能」を一番披露する。途中、能楽師によるキャラクターごとの能面の解説も行う。

[日程]11月13日
[会場]置賜文化ホール



半能「小鍛冶」より(能面:小飛出)

●山形県酒田市

希望ホール(酒田市民会館)
〒998-0043 酒田市本町2-2-10
Tel. 0234-24-2982 菊池藍
<http://www.kibou-hall.sakata.yamagata.jp/>

新野将之 パーカッション・リサイタル

国内で活躍するアーティストを招聘し、市民に質の高い芸術にふれる機会を提供する、アーティ

スト・イン・レジデンス事業の今年度最初の公演。最注目打楽器奏者である新野将之と藤澤仁奈の二人が共演し、公演の前半では打楽器の紹介やさまざまなエピソードなどのトークを交えて、後半では打楽器の新たな魅力を追求して演奏。スネアドラムやヴィブラフォン、マリンバなど、さまざまな打楽器の音色と鼓動を存分に楽しめるステージ。

[日程]11月7日
[会場]希望ホール(酒田市民会館)

関東

●埼玉県和光市

和光市文化振興公社
〒351-0192 和光市広沢1-5
Tel. 048-468-7771 塚田美穂
<http://www.sunazalea.or.jp/>

三栖右嗣特別展～ヤオオー川越美術館コレクション～

和光市に36年間住み、アトリエを構えた洋画家・三栖右嗣(1927～2010)の作品22点を展示する。目玉は枝垂れ桜を画面一杯に展開した500号の大作《爛漫》で、写実的な自然描写の中に透明感ある光と陰影を含ませ、独自の生命観を表している。11月28日(日)には、三栖右嗣夫人を招いてのギャラリートークを予定。

[日程]11月27日～12月6日
[会場]和光市民文化センター

●東京都港区

Dance New Air実行委員会
〒150-0002 渋谷区渋谷2-10-2
info@dancenewair.tokyo 宮久保真紀
<https://dancenewair.tokyo>

Dance New Air 2020->21

2年に一度、東京・青山エリアを中心に開催される国際ダンスフェスティバル。9回目を迎える今回は「身体と社会の生態系」をキーワードに、国内外6組のアーティストによる公演のほか、

ダンスショウケースや親子ワークショップ、展覧会でのダンスパフォーマンス、ダンスフィルムの上映、書店での書籍フェアなど、さまざまな場所を活用した多彩なプログラムが用意されている。

[日程]10月23日～11月12日
[会場]スパイラルホール、草月ホール、SHIBAURA HOUSE、港区立みなと科学館、シアター・イメージフォーラム、ほか

●東京都北区
北区文化振興財団
〒114-8503 北区王子1-11-1
北とびあ10F
Tel. 03-5390-1221 田村綾欧子
<https://kitabunka.or.jp/>

北とびあ国際音楽祭2021
古楽から現代までのクラシック音楽、世界の伝統音楽を満喫する1か月間。今年は、オペラの自主製作として「アクト・ド・バレ《アナクレオン》」を上演。バロックオペラの大家ラモーによる歌

とバレエを織り交ぜた気軽に楽しめるオペラで、バレエの系譜を歌などととも紹介する工夫も。このほかにも東京藝術大学学生&卒業生有志オーケストラによるファミリーコンサート「カニオとサルエット」など多数のプログラムを開催。

[日程]11月4日～12月12日
[会場]北とびあ

●神奈川県横須賀市
横須賀美術館

〒239-0813 横須賀市鴨居4-1
Tel. 046-845-1211 工藤香澄
<https://www.yokosuka-moa.jp/>

**ビジュツカンノススメ
アートを楽しむ4つのヒント**
「アトリエのひみつ」「絵画とブックデザイン」「作品のつくりかた」「美術館を探検」という4つのキーワードを基に、油彩や日本画、ドローイング、グラフィック・デザイン、写真など約100点を展示し、さらに建築やピクトグラム、美術館周辺の風景も併せて楽しんでもらう。予備知識が必要な美術史の文脈ではなく、より日常的な文脈からアートにふれることで、「美術館に行く面白さ」を再発見できる。

[日程]9月18日～11月7日
[会場]横須賀美術館

●「YPAM — 横浜国際舞台芸術ミーティング2021」開催のお知らせ

1995年に「芸術見本市/Tokyo Performing Arts Market」としてスタートしたTPAMが、この12月に「YPAM(ワイバム) — 横浜国際舞台芸術ミーティング」とタイトルを改め、横浜市の共催を得るなど体制も新たに再始動します。TPAM同様、国内外のアーティストや劇場・フェスティバル・支援団体などの舞台芸術関係者が集い、公演や交流プログラムを通じて舞台芸術の創造・普及・活性化のための情報交換やネットワーク構築のためのプラットフォームとしての機能はそのままに、今日的なアップデートを加えて開催します。

関係者同士で共有・提案したい課題などをテーマに行われる数十のミーティングを中心とした交流プログラム「YPAMエクステンジ」は、新型コロナウイルス感染症による世界情勢の変化を受けて、来場/オンラインのハイブリッドで実施します。

公演プログラム「YPAMディレクション」では、YPAMとしての第1回開催にあたり、第1回TPAMの公演プログラムを飾った劇団態変を、四半世紀を経て迎え、最新三部作「さ迷える愛・序破急」を一挙上演、その他、地域との連携プロジェクトなどをご紹介します。

会期中に横浜・東京エリアで実施される公演やプロジェクトを無審査で公募し、ご紹介するフリッジプログラムは、ライブパフォーマンスの自由な表現の可能性を追求した多様な作品が集まり鑑賞していただける機会として多くの方に親しまれてきました。今回「YPAMフリッジ」として再出発するにあたり、新たに「YPAMフリッジセンター」を地元黄金町スタジオ内に開設、会期中毎日営業します。観劇の前後にお気軽にご活用ください。

プログラム詳細や参加登録については公式ウェブサイト(<https://ypam.jp>)をご覧ください。

●YPAM-横浜国際舞台芸術ミーティング2021
[会期]2021年12月1日～19日
[主会場]KAAT神奈川芸術劇場、BankART KAIKO
[主催]YPAM実行委員会(公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター)
[共催]横浜市文化観光局
[助成]公益財団法人セゾン文化財団、リコー社会貢献クラブ・FreeWill
[協力]BankART1929、黄金町エリアマネジメントセンター
[後援]外務省、神奈川県、国際交流基金、公益社団法人全国公立文化施設協会



左:劇団態変
「さ迷える愛・三部作 序
「翠晶の城」
©bozzo

右:前回のグループ・ミー
ティング(2021年2月)
撮影:ならぶきりく

北陸・中部

●新潟市
新潟市美術館
〒951-8556 新潟市中央区西
大畑町5191-9
Tel. 025-223-1622 児矢野あゆみ
<http://www.ncam.jp/html/>

**コレクション展Ⅱ
美術館で、山歩き**
親しみやすい低山から峻厳たる連峰まで多くの山に囲まれた新潟県。本展では、弥彦山と角田山を描いた横山操の《茜》など、新潟をはじめ日本各地の雄大な山々を描いた作品や、「山」という文字やその姿をさまざまに解釈し、見立て、自由に表現した作品等を展示する。山から想起される多様な表現を約50点の作品を通して紹介するとともに、コロナ禍の今、美術館で“自然”を楽しんでもらう。

[日程]9月15日～2022年1月23日
[会場]新潟市美術館

●富山県富山市
富山市民文化事業団
〒930-0858 富山市牛島町9-28

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

Tel. 076-445-5610 福岡美奈子
<http://www.aubade.or.jp>

AUBADE HALL Produce THEATER YOGA「シアターヨガ」

三面半舞台を保有するオーバード・ホールの巨大空間を活かしたヨガイベント。参加者(60人)は主舞台と奥舞台上に3mの間隔を取り、インストラクター5名は、どの位置からでも確認できる場所に配置。初心者など誰でも気軽に参加できるように4つのプログラムを用意。客席やパトロンに投影される映像、変化する照明、パーカッションによる生演奏の中でヨガが楽しめる企画となっている。

[日程] 10月30日

[会場] オーバード・ホール

●福井県あわら市

金津創作の森財団
〒919-0806 あわら市宮谷57-2-19

Tel. 0776-73-7800 長縄宣
<https://sosaku.jp/>

アートドキュメント2021 占部史人展—ガングス河の砂の数ほどの孤独—

廃材や捨てられたものすべてに魂が宿るという考えから、拾い集めた素材をアート作品化し、新たな命を吹き込んで、再び世に送り出す活動を続けている占部史人の展覧会。コロナ禍中に制作した《箱の生活》やブリキ板でつくったトラックなど、ユニークな展示も行う。夏季に現地制作したアトリエ小屋を会場内に



《箱の生活》(2021年) ©FUMITO URABE

移設するなど、金津創作の森でしか実現できない、心癒される占部ワールドを体感できる。

[日程] 11月6日～12月12日

[会場] 金津創作の森美術館

●長野県東御市

丸山晚霞記念館
〒389-0515 東御市常田505-1
Tel. 0268-62-3700 佐藤聡史
<https://maruyamabanka.com/>

丸山晚霞没後80年、丸山晚霞 記念館開館15周年「心にしみる 淡く透き通る風景 水彩の明星」

「水彩の三明星」と称され、明治から大正期にかけて大きな功績を残した丸山晚霞、三宅克己、大下藤次郎、彼らとも深い関わりをもつ吉田博の水彩画を紹介する。彼らが信州の山岳や田園風景を題材に生み出した約120点を展示。大下藤次郎作品については、島根県立石見美術館所蔵作品が長野県で初めて多数展示される。

[日程] 10月30日～12月26日

[会場] 丸山晚霞記念館



丸山晚霞《津津風景》(1900年以前)

●静岡市

静岡県文化財団
〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1

Tel. 054-289-9000 渡邊麻恵
<https://www.granship.or.jp/visitors/>

にっぽんこども劇場 ～講談わんだーらんど～

子どもたちが日本の伝統芸能を楽しめるプログラム。今回のテ-

マは、日本の話芸のひとつである「講談」。歴史や独特な表現など講談の基本を、現役講談師が紹介した後、グリム童話『白雪姫』を講談で実演。さらに、参加する子どもたちが実際に講談のセリフに挑戦し、張扇を持って記念撮影をすることで、講談師の気分を味わうなど、講談を見て、聞いて、体験して、楽しむことができる。

[日程] 11月27日

[会場] 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

●名古屋市

愛知県美術館
〒461-8525 名古屋市中区東区桜1-13-2 愛知芸術文化センター10F
Tel. 052-971-5511 由良濯
https://static.chunichi.co.jp/chunichi/pages/event/soga_shohaku/

曾我蕭白 奇想ここに極まれり

「奇想」の絵師とされる曾我蕭白(1730～81)の、醜怪な表現で見る人に強烈な印象を与える最盛期の作品から、毒気を抜かれたように落ち着きを見せる晩年の作品まで、数々の作品を制作年代順に展示。また、桃山時代・江戸時代初期の絵画との関係を探り下り、蕭白がいかにして型を破り、奇矯な画風を打ち立てたのかを明らかにし、晩年の作品への変化を通して画業の到達点を見定める。

[日程] 10月8日～11月21日

[会場] 愛知県美術館

●愛知県豊橋市

豊橋市美術博物館
〒440-0801 豊橋市今橋町3-1
Tel. 0532-51-2882 岡田巨世
<http://www.toyohashi-bihaku.jp/>

第8回トリエンナーレ豊橋 星野眞吾賞展～明日の日本画を 求めて～

戦後の日本画壇に多大な影響

を与えた豊橋出身の日本画家・星野眞吾(1923～97)と、妻の日本画家・高畑郁子の寄付による美術振興基金を活用した、3年に1度の全国公募展。「従来の概念にはとらわれない日本画」を募集し、豊橋から新しい美術文化の発信を目指す。星野眞吾賞(大賞)を受賞した佐々木菜摘《痕跡!?!》をはじめ入選作品57点を展示。

[日程] 11月30日～12月26日

[会場] 豊橋市美術博物館

近畿

●三重県津市

三重県文化会館
〒514-0061 津市一身田上津部田1234
Tel. 059-233-1100 小林由梨佳
<https://m-pad.tumblr.com/>

MPAD2021 料理をたのしむ 演 劇をたのしむ 秋のおたのしみ

県内の飲食店・寺院を会場に、素敵な料理と俳優の身体を通じて名作・古典のリーディングを楽しめるプログラム。11年目を迎える今年は、『古事記』から時代小説、童話、太宰治、横光利一の作品がラインナップされている。また、店舗公演とは別にリーディング公演のみを一挙に観劇できる「まどめ見」も三重県文化会館で上演される。

[日程] 11月17日～28日

[会場] 三重県内飲食店ほか

●三重県亀山市

亀山市文化会館
〒519-0124 亀山市東御幸町63
Tel. 0595-82-7111 岩間晶子
<http://www.kameyama-bunkakain.com/index.html>

第35回KAMEYAMA“若い芽” のコンサート

これから世に羽ばたこうとしている演奏家に演奏の場を提供しようと企画したコンサート。35回目の今回は、三重県出身や亀山

市近郊で活躍している4組の若い演奏家が集い、ソプラノ独唱やピアノ、マリンバの演奏を披露する。またゲストにピアニストの安藤千紗都を招き、ドビュッシー「ベルガマスク組曲第3曲『月の光』」などの演奏を予定している。

[日程] 11月23日
[会場] 亀山市文化会館

●滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
〒520-0806 大津市打出浜15-1
Tel. 077-523-7150 川口典子
<https://www.biwako-hall.or.jp/>

アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい

一般公募で選ばれたバラエティ豊かな出演者たちが集い、楽しい音楽を奏でる。公演の最後には、クロマティックハーモニカの第一人者でもある和谷泰扶と、ギター奏者・松尾俊介がゲストプレーヤーとして登場。司会はテノール歌手・竹内直紀。アンサンブルを楽しむ10組のアットホームなコンサート。

[日程] 11月21日
[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●兵庫県川西市・猪名川町、大阪府豊能町・能勢町

のせでんアートライン 妙見の森実行委員会
info@noseden-artline.com 舛野隆
<http://noseden-artline.com/2021/>

のせでんアートライン2021

兵庫県と大阪府をまたぐ能勢電鉄(のせでん)の沿線地域とアーティストが一体となってつくる2年に一度の芸術祭。今回は「光」と「音」と「食」の芸術祭と題し、芸術作品の展示、音楽祭や野外シアター、また「地域プロジェクト」として地域住民を中心に、公募で集まったさまざまなイベントなどを行う。野外シアターで

は、地域のグルメが楽しめるテイクアウト販売も予定。

[日程] 10月30日～11月23日
[会場] 能勢電鉄沿線 妙見山一帯ほか

●大阪府枚方市

枚方市総合文化芸術センター
〒573-1191 枚方市新町2-1-60
Tel. 072-845-4910 三島亜由美
<https://hirakata-arts.jp/>

枚方市文化芸術アドバイザー わかぎふ企画「12人のおかしな大阪人～2021」

2021年9月にオープンした枚方市総合文化芸術センターの開館記念公演。東野ひろあきが脚本を書いた当作品は、『12人の怒れる男』の登場人物を大阪人に置き換えて贈る、笑いたっぷりの法廷劇。1995年に初演され、2020年にほぼオリジナルキャストでのリモート朗読が配信されて話題を呼んだ。枚方市文化芸術アドバイザーのわかぎふによる演出も楽しみな公演となっている。

[日程] 11月27日、28日
[会場] 枚方市総合文化芸術センター

●兵庫県姫路市

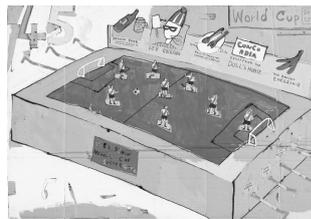
姫路市立美術館
〒670-0012 姫路市本町68-25
Tel. 079-222-2288 小川美波
<https://www.city.himeji.lg.jp/art/>

日比野克彦展「明後日のアート」

日比野克彦は姫路市内で、朝顔の育成を通じて人や地域間のコミュニケーションを促す「明後日朝顔プロジェクト」を軸とした「明後日のアートの学校」を継続的に展開している。本展では、現在進行形のプロジェクトとともに、これらの「種」となった80年代、90年代の作品を紹介し、アーティスト日比野克彦の神髄に迫る。工作ワークショップとスポーツが融合した市民参加型イベント

「HIBINO CUP」なども開催。

[日程] 9月18日～11月7日
[会場] 姫路市立美術館



日比野克彦《PRESENT SOCCER》
(1982年/岐阜県美術館蔵)

●奈良県

奈良県立万葉文化館
〒634-0103 高市郡明日香村飛鳥10
Tel. 0744-54-1850 染田英美子
<http://www.manyo.jp/>

開館20周年記念特別展 「うま酒の国 大和」

古来酒は神事の中で供えられ、神と人とを繋ぎ、人々が集う宴の中では人と人とを繋ぐものとして生活の中に深く浸透し、さらには酒器・酒をテーマにした絵画など、さまざまな文化を生み出してきた。本展では、大和を中心とした地域における酒と文化の関わりについて絵画・工芸品などの資料を交えて検討。文化を生み出す原動力となった酒の力を描き出す。

[日程] 10月9日～11月23日
[会場] 奈良県立万葉文化館

●和歌山県田辺市・白浜町

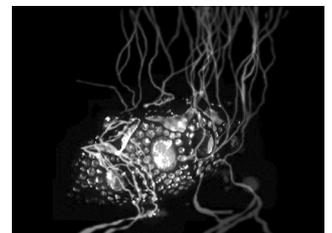
紀南アートウィーク実行委員会
Tel. 090-3710-3866 下田学
<https://kinan-art.jp/>

紀南アートウィーク2021

和歌山県紀南地域・牟婁郡を舞台とした初開催のアートイベント。「籠もりの文化」と「港の文化」という地域独自の文化に着目し、グローバルに活躍するアーティストの作品と地元ゆかりのアーティストによる新作を展示する。また、文化・風俗に関するシ

ンポジウムや地域のさまざまな産業従事者との対談、教育機関等との共同ワークショップなども開催。ウェブサイトやSNSなどはすべて日英2言語で情報発信する。

[日程] 11月18日～28日
[会場] 和歌山県紀南地域 田辺市・白浜町内各所



アビチャップン・ウィーラセタクン[タイ]
《My Mother's Garden (for Dior)》(2007年)

中国・四国

●高知県高知市

高知県立美術館
〒781-8123 高知市高須353-2
Tel. 088-866-8000 塚本麻莉
<https://moak.jp/>

奥谷博一 無窮へ

高知県宿毛市出身の洋画家・奥谷博一は、一貫して具象画を追求し、自画像や人物、静物、風景、世界遺産、仏像など幅広い画題に取り組んでいる。その描写の端々には、自然豊かな故郷で過ごした日々が息づいている。本展では、初公開となる宿毛時代の習作群から、代表作や最新作までの約100点を一堂に展示することで、80歳を超えてもなお進化し続ける奥谷芸術の全容を明らかにする。

[日程] 11月3日～2022年1月16日
[会場] 高知県立美術館

九州・沖縄

●佐賀県佐賀市

佐賀市立東与賀文化ホール
〒849-0923 佐賀市東与賀町大字下古賀1228-3
Tel. 0952-45-3939 中野弘文
<http://shinpo.jp/>

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

ひがしよかSAGAのアーティスト シリーズ ヴァイオリンカルテット TETRA CHORD featuring 荒木真衣子

佐賀県ゆかりのアーティストに着目した「ひがしよかSAGAのアーティストシリーズ」。東与賀文化ホールのオリジナル企画で、これまでにさまざまな音楽ジャンルを開催。今回は、作曲家兼ピアニストである橋本芳率いるヴァイオリンカルテットTETRA CHORDが登場。ゲストヴォーカルには、佐賀県出身で人気沸騰中の荒木真衣子が加わり、ヨーロッパアンチスト溢れるジャズサウンドを披露する。

[日程] 11月27日

[会場] 東与賀文化ホール

●熊本県津奈木町

熊本県立劇場

〒862-0971 熊本市中央区大江2-7-1

Tel. 096-363-2233 中野萌
<https://www.kengeki.or.jp/>

Art×Music

中川賢一ピアノコンサート

ピアニストの中川賢一によるコンサート。つなぎ美術館の開館20周年を記念したアート・プログラムのひとつで、つなぎ美術館と熊本県立劇場の特別連携企画として開催される。ドビュッシーやサティ、武満徹らの作品の中から“しずかな”曲を選定し、展示と併せて楽しめる演奏会となっている。演奏は午前11時と午後2時の2回。それぞれ違うプログラムを予定。

[日程] 11月14日

[会場] つなぎ美術館

●宮崎県都城市

都城市立美術館

〒885-0073 都城市姫城町7-18
Tel. 0986-25-1447 祝迫眞澄
<https://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/site/artmuseum/>

日本美術の源流—雪舟・狩野 派から近代美術—

開館40周年記念特別展として開催される、日本美術の歴史と源流をたどる展覧会。雪舟の流れを汲む中世水墨画を扱う第一章、狩野派、円山・四条派等を含む近世絵画を扱う第二章、黒田清輝等による近代美術を扱う第三章と、日本美術の流れを南九州の視点から約80点の作品を通して振り返る。関連イベントとして、日本画の材料を使って描く制作ワークショップや記念講演会なども予定。

[日程] 10月30日～12月5日

[会場] 都城市立美術館

●沖縄県那覇市

沖縄県立博物館・美術館

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1

Tel. 098-941-8200 豊見山愛
<https://okimu.jp/>

琉球の横顔—描かれた「私」からの出発

沖縄に生まれ、あるいは沖縄にゆかりのある16名の作家の作品を集めた展覧会。沖縄出身の久志美沙子の小説『滅びゆく琉球女の手記』で描かれていた「弱者への差別や偏見」という問題を21世紀の今日に受け止め、表現の限界に迫る方法論を実践するアーティストを取り上げる。沖縄美術の多文化的な側面と可能性、アートの新たな展開をお届けする。

[日程] 11月3日～2022年1月16日

[会場] 沖縄県立博物館・美術館

講座・シンポジウム

劇場長に聞く!岡山芸術創造 劇場のあれこれ

2023年9月にグランドオープンする岡山芸術創造劇場。開館に先駆け、劇場近隣の表町商店街内に開所された情報発信・交流スペース「まちなか集会所

kikkake!」で、商店街と連携し、地域の方や全国のアートマネジメントに興味をもつ方に向けて、劇場長の草加叔也氏が新劇場をわかりやすく解説する会を開く(オンライン視聴可)。そのほか、まちと劇場、人と劇場が出会う“きっかけ”が生まれる場所として、全国の舞台芸術情報や劇場模型の展示なども行う。

[日程] 11月7日、10日

[会場] まちなか集会所kikkake!

[問い合わせ] 岡山文化芸術創造(岡山芸術創造劇場)

Tel. 086-225-0154

<https://www.ocac.jp/>



まちなか集会所kikkake!

オンラインを活用 した取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により、各地で広がるオンラインを活用した取り組みをご紹介します。

※実施施設の北から順に掲載

●岐阜県岐阜市

アートまるケット

おうちに居ながら—美術館

美術館を飛び出して岐阜をアートでいっぱいにしてしようとの思いでスタートしたシリーズ企画「アートまるケット」。コロナ禍となり、昨年からは岐阜県美術館長を務める日比野克彦の作品を中心に選出し、岐阜県出身の彫刻家・鈴木一太郎が3DCG化。A

R(拡張現実)技術を活用したオンライン上で行う鑑賞として、スマートフォンやタブレット端末を使って作品を好きな場所に飾り、おうちに居ながら美術鑑賞を楽しむことができる。

[URL]https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/events/artmaruketto-artmaruket_ouchi/

[問い合わせ] 岐阜県美術館

Tel. 058-271-1313

●福岡県久留米市

久留米市美術館 自慢のコレクションを紹介!〜こんな時だからこそおうちで美術館〜

近代以降、青木繁や坂本繁二郎などすぐれた洋画家を輩出してきた久留米。久留米市美術館ではこれら久留米出身の洋画家たちを中心として、さらに九州全域へ目を向けた九州洋画の体系的コレクション形成を目指している。これらのコレクションをYouTubeチャンネルで「学芸員のおすすめ」「かわいい」などさまざまなテーマで紹介。自宅に居ながらも芸術に触れて心豊かに過ごす時間を提供している。

[URL]https://www.youtube.com/channel/UCTJq1REyH5uR8XiMiQC_CoQQ

[問い合わせ] 石橋文化センター

Tel. 0942-33-2271

クリスマス・新春企画 情報 求む!

12月号(11月25日発行予定)では「クリスマス・新春企画」を中心にご紹介します。下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4183

Fax. 03-5573-4060

letter@jafra.or.jp

締め切り: 10月29日(金)

▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

和歌山県九度山町

くどやま芸術祭 2021



上: 慈尊院拝殿の大西高志の展示
中: 元病院で展開した村山大明のインスタレーション。真ん中の額縁の向こうが部屋になっていて絵の中に入れる仕掛け
下: 紙遊苑の宮崎雄樹の展示

●くどやま芸術祭2021

【会期】2021年9月19日～10月17日

【主催】九度山町まちなか活性化協議会
(くどやま芸術祭実行委員会)

【会場】「真田のみち」商店街を中心としたまちなかエリア各所、「慈尊院」「丹生官省符神社」を中心とした世界遺産エリア各所

*1 慈尊院(じそんいん)

空海(弘法大師)が高野山参詣の玄関口として伽藍と庶務を司る政所を開いたのが始まり。女人禁制だった高野山に入山できなかった空海の母がここに滞在し、弥勒仏を信仰したことから女人結縁の寺として知られ、女人の参詣を認めたことから「女人高野」とも呼ばれる。

*2 紙遊苑

かつて皇族の宿泊所などとして用いられていた建物を復元し、紙すき体験・資料館として活用。

大阪のなんば駅から南海高野線で1時間あまり。空海が開いた聖地・高野山への玄関口にあたる和歌山県伊都郡九度山町。2004年に高野山とともにユネスコの世界遺産に登録された慈尊院(*1)と丹生官省符神社があり、真田幸村が14年間蟄居した地としても知られる。近年では少子高齢化が進み、人口は約4,000人にまで減少し、空き店舗が目立つ。ここで「まちが丸ごと美術館に」をコンセプトに始まったのが「くどやま芸術祭」だ。9月26日、27日、その模様取材した。

この芸術祭は現代日本画家の大西高志が総合企画を務め、招待作家と一般公募作家の2枠で展開。展示会場は、昔ながらの路地が入り組み、空洞化が進む「まちなかエリア」と、慈尊院などを舞台にした「世界遺産エリア」で、今年は、招待22名、公募20名、町内作家3名が店舗のショーウィンドーや空き家から寺院まで計43カ所で作品を展示した。

「町の人にできるだけいろいろな表現にふれてもらいたい」という大西のキュレーションで、九度山の風景に自画像らしき少女が佇む八太栄里の絵画作品、絵本の中に迷い込むような動植物の細密画による村山大明のインスタレーション、古びた理容店を九度山の映像とひぐらしの声で満たすspirogramのメディカルアート、捻れたパイプの不思議な動きが目を奪う藤原正和のキネティックアートなど、多種多様な作品を展示。

見所になっている世界遺産エリアでは、慈尊院拝堂の壁全面に大西の色鮮やかな現代日本画がはめ込まれ、勝利寺境内にある紙遊苑(*2)では和室に水を張り、庭の木々と宮崎雄樹の絵画が水面に映り込む凝った展示を展開した。

また、2つのエリアを繋ぐ道の駅「柿の郷くどやま」ではiPadをかざすと絵画から鳥が飛び立つ大西の体験型作品を大人も子どもも楽しんでいた。すべて無料で、1日あれば見て回れる規模だが、町の日常とアートが馴染んだ良質の芸術祭になっていた。

そもそもなぜ九度山で芸術祭が始まったのだろう。直接のきっかけは、大河ドラマ『真田丸』の放送決定を祝し、隣の橋本市出身の大西が町に作品を寄贈したことだという。それが縁となり町が個展を開催し、岡本章町長と会った大西が芸術祭を提案したという。

「他所の芸術祭やアートフェアなどに参加する中で作家目線の芸術祭づくりに興味もっていました。翌16年の開催がすぐに決まり、それから参加していただけるアーティストを探すなど、大急ぎで準備をしました。ここでは世界遺産に展示できるなど作家として得がたい挑戦ができます」(大西)

06年には現町長が観光立町を掲げて当選。08年に九度山町まちなか活性化協議会を立ち上げるとともに、町民が蕎麦打ち修行をしてオープンしたそば処幸村庵、町民と観光客のための道の駅、九度山・真田ミュージアム、「大取獲祭IN九度山」など、役場と町民が一体となった取り組みを始める。

「そこに、これまで町とは全く縁のなかった現代アートという新しい要素が加わったのです。第1回は放送と重なり、勢いで乗り切った感じでした。17年からは町の人にアートに馴染んでもらうため、一般公募の作家がまちなかに作品を展示するアートウィークを始めました」と産業振興課主幹の辻本昌弘さんは振り返る。

毎年続けることで、場所を紹介してくれる人や、空き家などの新しい使い方に気づく人も現れた。その積み重ねを経て、今年、2回目(コロナ禍により1年延期)を実現した。「予算は少ないですが、実行委員会をはじめ、町の人や寺院も当たり前のように協力してくれる。役場の仕事では得られなかった人の繋がりが生まれました。町全体の種まきになっています」と辻本さん。

楽しそうに作品の説明をする町の人たちと触れあいながら、背伸びせず、役場と町民とアーティストが手を取り合っただけの等身大の芸術祭のゆったりとした時間に心が満たされるのを感じた。

(アートジャーナリスト・山下里加)